

スクラム

scrum

飛蚊症について

視界にごみや虫のようなものが飛んでいるように見える症状を飛蚊症と言います。飛蚊症には治療が必要ではない「生理的飛蚊症」と、治療が遅れると視機能が障害されることがある「病的飛蚊症」があります。

【生理的飛蚊症】

硝子体は加齢とともに変化し、網膜から硝子体が離れる後部

副院長・眼科長 横川 由起子

硝子体剥離の際に生じる混濁が眼球運動に伴ってゆらゆらと動いて見えるのが生理的飛蚊症です。

この変化は60歳代で急性に発症すると考えられていましたが、近年、光干渉断層計（OCT）の発展により、加齢とともに段階的に進行することがわかってきました。硝子体ポケット（液化腔）は3歳児頃から存在し、30～40歳代頃からポケット後壁が黄斑周囲で部分的に剥離、50～60歳代から黄斑部中心窩で剥離、60～70歳代で完全後部硝子体剥離となります。ただし、中等度以上の近視の場合、後部硝子体剥離は10年くらい早く起こります。

【病的飛蚊症】 代表的な疾患をご紹介します。

1) 网膜裂孔：後部硝子体剥離の際に網膜裂孔を発症することがあり、網膜剥離に進展したり、硝子体出血を併発したりします。光視症（視界の中に閃光のようなものが見える症状）を自覚することがあります。網膜には痛覚はなく痛みはありません。直ちに適切な治療が必要です。

2) 硝子体出血：糖尿病や高血圧、外傷などが原因で硝子体内に出血することがあります。飛蚊症で初めて糖尿病が見つかった症例を何度も経験しました。糖尿病網膜症は無症状で進行し、飛蚊症などの症状が出たときにはすでに末期となっていることが多いです。定期的な眼底検査が大切です。

3) ぶどう膜炎：一部のぶどう膜炎では硝子体内に濁りを生じるため、飛蚊症を起こします。ぶどう膜炎の場合、眼痛・充血・霧視・羞明を伴うことが多いです。

飛蚊症は、多くの場合は加齢に伴う生理的なものであり、治療も不要で心配がないものです。

しかし、その一部は直ちに加療を要する重篤な疾患の前駆症状のことがあります。早めに眼科受診を勧めてください。その際には必ず散瞳下で眼底検査を行います。運転での受診を避けて頂くようご指導お願いします。



痔核の診断・治療について

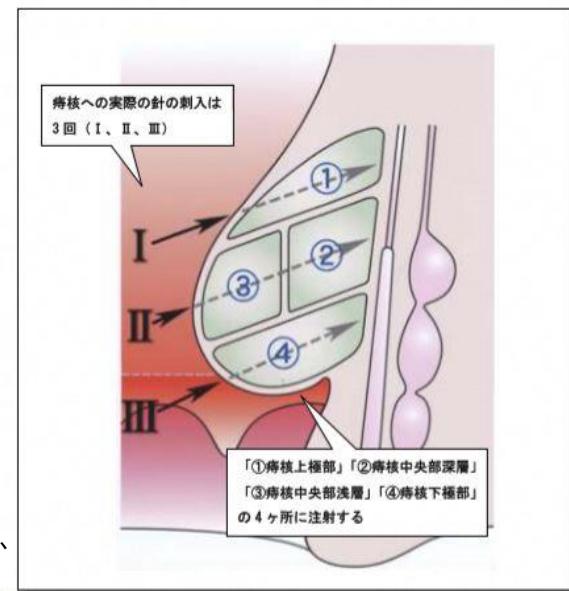
外科医長 曽我 真伍



一般外科において主に扱うのは消化管疾患ですが、その中でも特に専門化した分野として肛門疾患があります。中でも痔核、痔瘻、裂肛は3大痔疾患と呼ばれています。代表的な症状として出血・脱肛・肛門部痛が挙げられますが、上記疾患以外にもこれらの症状を呈することがあり、正確な診断が重要です。本稿では、痔核の診断や治療に関してご紹介致します。

痔核は歯状線を境として、内痔核と血栓性外痔核の2つに大きく分けられます。全肛門疾患の6割程度を占めており、男女ともに最も多い肛門疾患です。血栓性外痔核は短期間の経過で発症し、強い痛みを伴うことが特徴です。血栓が大きく症状がひどい場合には血栓摘除術を行いますが、大部分は温浴や外用薬などの保存的治療で奏功します。内痔核は多くは慢性的に経過し、排便時の新鮮出血や脱肛が主な症状で、肛門部痛に関しては脱出時のみに認められる、あるいは全く痛みが伴わないこともあります。前述の血栓性外痔核と異なります。内痔核の診断は直腸診や内視鏡の直腸反転観察のみでは不十分で、肛門鏡での診察が必須です。治療方針の決定には、脱出の程度で分けられたGoligher分類が有用です。程度が軽いI～II^oでは、日常生活の指導や外用薬による保存的治療で症状の軽減が期待できますが、痔核自体を根治させることはできないとされています。指での還納を要するIII^o以上で、外科的治療の介入が検討されます。痔核結紮切除術(LE)は最も根治性が高い治療法ですが、急性期には後出血が、晚期には肛門狭窄の可能性があります。これに対して硫酸アルミニウムカリウム・タンニン酸による硬化療法(ALTA療法)は、再発率はやや高いとされていますが、出血や疼痛が軽度で、狭窄のリスクも低い治療法です。主痔核は3か所など複数個所に存在することもしばしばで、当院ではLEやALTA療法の単独、または併用療法を行い、それぞれの利点を考慮した上で、個々の患者様に応じた適切な治療を行っております。

当科では痔核以外にも、多種多様な肛門疾患に
対して診断・治療を行っており、お気軽にご相談、
ご紹介頂けましたら幸甚です。





◆ 産婦人科外来に椅子型診察台を導入しました ◆

産婦人科外来に、新しい椅子型診察台を導入しました。主に腹部の超音波検査の時に使用します。

これまでベッド上で胎児エコー像を確認する場合は、妊婦さんに上半身や首を起こした窮屈な姿勢を取っていただく必要がありました。新しい診察台では、座った状態から胎児エコー像が確認しやすい体位にスムーズに移行できます。フルフラットにすることも可能ですので、臥床状態の婦人科患者さんにも対応できます。

できるだけ明るい雰囲気の診察室になればと思い、色は白を選択しました。妊婦さんからも好評を得ています。



◆ 当院テニス部が優勝しました!! ◆

第35回石川県医療人対抗テニス大会（令和元年10月6日 城北市民テニスコートにて）に当院からAチームがBクラスに、BチームがCクラスに参加しました。
AチームがBクラスで優勝し、来年からAクラスに昇格します！！

メンバー

[医 師] 山田 赤池 多賀 玉井(OB) 小林(OB)
[看護師] 谷 山村 大久保 鷹野 松本
[事 務] 西尾
[職員家族] 山村 太田(栄養部)
[部長兼応援] 横川



第15回登録医総会をKKRホテル金沢にて開催します

第15回 金沢市立病院 登録医総会

2019.11.8(金)午後7時～ KKRホテル金沢

プログラム

1. 開催の挨拶……………病院長 高田 重男
2. 地域連携室年次報告……………地域連携室看護師長 長谷川 真由美
(糖尿病の検査入院について……………内分泌・糖尿病内科 宇野 将文)
3. 当院での不整脈診療への取り組み……………循環器内科 徳久 英樹
4. 新米開業医の悪戦苦闘……………いけだなおき内科医院 池田 直樹先生



登録医の先生方のご参加をお待ちしております。出席のご連絡をいただいて
いない場合は、地域連携室までご連絡ください。

金沢市立病院 地域連携室

TEL:245-2626（直通） FAX:245-2693（直通）

お問い合わせ・ご予約などお気軽にご連絡ください。

<http://kanazawa-municipal-hosp.com/>